

日本国（555m）と鶴岡

ASC'24 秋の全国集会 木村喜代志

今日、新潟と山形の主要路は国道7号と羽越本線で、海岸に沿って走っている。しかし、明治以前は、より東方の山越えが主な通路であった。

「日本国」と並んで庄内にもう一つ含みのある山がある。日本国のさらに東、山よりの「摩耶山」（1,020m）である。1,000mそこそこの山であるが、地壘山地に加えて雪による浸食がはげしく、東北の山にしては珍しい急峻な岩山である。豊臣秀吉の軍用金埋蔵の話や御宝前の地名が残るなど謎めいている。仏母摩耶夫人信仰の真言宗の霊場として「摩耶山」となった、あるいは既から転じた山名とも言われている。

山名はさて置き、天照大神の弟、須佐之男命が馬で摩耶山を越えたという言い伝えがあり、馬を繋ぎとめたとされる「駒の森」の地名や馬の足跡（甌穴）が残っている。さらに、摩耶山を越えた後、摩耶山の北西側、後の出羽の国側に蝦夷制圧の拠点となった「都岐沙羅柵」の話もある。要するに、大昔から雷峠、関川峠などを通して木野俣、小国などに出るなど越後と出羽の人々の往来があったことを示しているといえる。

話を日本国に戻して、日本国から県境に沿って踏み跡を辿って東に行くと直ぐに「堀切峠」に出る。江戸時代には、越後国村上城と出羽国鶴ヶ岡城を結ぶ主要街道で、越後の小俣と、出羽の小名部と小国に宿場町があった。この街道は、摩耶山の雷峠同様古代からの交通路として知られており、出羽の夜明けと共に出てくる路である。この峠が日本国の果てで、この先は朝廷の支配に置かない蝦夷の地であったと言われている。唐の詩人、王維の「西のかた陽関を出づれば故人無からん」と似た状況だったのだろう。それでここの目立った山を「日本国」として朝廷の勢力を誇示していたのが日本国の由来という説がある。

大化の改新（645年）以降、朝廷が蝦夷征伐に本腰を入れ始め647年に信濃川河口に淳足（双列）柵、今日の村上市に磐舟柵を648年に築く。そして、この峠を越えた所、場所は不明だが都岐沙羅柵を築き、100余年後の奈良時代の末期780年代には庄内平野北部に城輪（キノ）柵を築いている。当時の柵、砦の様子は、酒田の北部、本楯に近く城輪柵が復元されており、その規模の大きさに驚かされる。

1,500～1,600年前とはいえ、柵、砦を築きながら異民族を追い払い、あるいは支配していく様子は、150～60年前のアメリカの西部開拓期に奥へ奥へと追いやられたネイティブアメリカンに似ているし、50～60年前から始まった時代錯誤な信仰と習慣が残る野蛮な地とし、「四旧」（思想、文化、風俗、習慣）打破、解放を名目とした中国共産党政権による「チベット侵攻」で柵の中で自由を奪われたチベット民族を彷彿させられる。

奈良時代から長い年月を通し多くの人々によって踏み固められた「堀切峠」を越える街道

は、江戸時代に入り、出羽の国庄内藩主（十三万八千石）として酒井忠勝公が 1622 年この峠を通過して入部している。また、出羽三山詣での多くの信者が、芭蕉が通っている。酒井の殿様は入部以来今日でも鶴岡に住み続けている全国では珍しく、鶴岡では「殿」、「殿はん」と呼ばれ親しまれている。

城下町鶴岡の JR 鶴岡駅は、出羽三山もお城も市役所もある東向きである。駅の西側、日本海側は 40～50 年前までは水田が広がっていた。ここにポツンと「日本国」の地名がある。生徒数減少などで高校を統廃合で新しく造られた県立鶴岡中央高校の住所は、鶴岡市大宝寺字日本国〇×番地である。近くにある鉄工所の建物には「ここは鶴岡市日本国です」と大きな字で誇らしげに書かれている。県境の「日本国」との関係は勿論、この日本国の由来も解らないが、戦国時代の荒地だった頃には既に存在していたという。

鶴岡には城下町特有の町名が残っていた。城の近くは上級武士の住む家中新町、それに続いて鷹匠町、下級武士の二百人町、商人の町の肴町、十日町などなどである。上級武士の住処の隣に鷹匠町があったことは、多くの鷹匠が居り、多くの鷹が飼育されていたことを意味する。同時に、藩として重用していたことが伺われる。「日本国」の由来の一つにこの山の近くで鷹を捕まえ、将軍に献上したところ大いに喜ばれ、捕まえた山を「日本国」と呼ぶが良いとする説との関係は解らないが、あり得る話である。

また、庄内と山形を結ぶ国道 112 号の湯殿山スキー場付近から北を見ると、田麦俣川を挟んで存在感のある尾根が見える。この南斜面の立ち木は雪に埋まり比高 150m 程の白一色の斜面となる。尾根の東端の山が「鷹匠山」（735m）で、尾根には水平に雪庇が張りだし、かなり広い平坦な雪原となり鷹の訓練には適したところと思われる。このさらに北側に、湯殿山総本寺大日坊がある。春日局も訪れたと言われ、徳川将軍家の祈願所でも知られている。この付近に鷹が多く、鷹の羽が弓矢の風切りに重宝されており朝廷に献上したところ、羽の出る国即ち「出羽の国」と称するようになったとの話が残っている。また、大日坊のすぐ近くの注連寺は、833 年空海の開山とされ、ミシュラン・グリーンガイドジャポン総合評価 2 ッ星である。森 敦の芥川賞受賞作品「月山」の舞台となった所でもある。

庄内には日本国だけでなく、仏母との関わりの摩耶山、徳川三代将軍家光の病の全快を願って祈願したとされる湯殿山総本寺の大日坊と、「出羽の国」命名と関わりがありそうな鷹匠山、ミシュランガイドジャポン総合評価 2 ッ星、森 敦の芥川賞「月山」の舞台となった注連寺、東日本の船乗や漁師たちの信仰が厚い鶴岡市郊外大山の善宝寺。少し離れるが酒田市本楯、鳥海山の帰りに立ち寄りたい蝦夷征伐前進基地の城輪柵などがひっそりと佇んでいる。

食では、鶴岡の風土や歴史に育まれた食文化が認められ、日本で初めて「ユネスコ食文化

創造都市」に認定された。庄内地方は 2,000m 級の山々から日本海までの高低差と四季の変化をもたらす気候が多様な農産物を育て山、里、海の食文化を育ててきた。食材の鮮度が重宝される日本食では、近在近郊からの食材入手が絶対条件である。昔から食材は「四方三里」、「四方八里」などと言われてきた。庄内平野の面積は「四方三里」とほぼ一致する理想郷である。

春の孟宗汁、産地は金峯山麓の湯田川産と温海の早田産の朝採りに限る。えぐみがなく、アク抜きは不要である。味噌汁に酒粕を入れる独特の作り方である。夏の味覚は枝豆、鶴岡では「だだちゃ豆」といい、香ばしい香りと甘みと旨味で、枝豆の概念が変わる。6品種のうち「白山」の美味さが知られている。さやの表面は茶色のうぶ毛があり、くびれて皺が寄る。豆は2粒が基本である。大寒限定で食べられる寒鱈汁のことをドンガラ汁と呼んでいる。材料はマダラで、アラを中心に少量のネギを加えた味噌味の鱈汁である。これに荒波が打ち寄せる岩場から摘み取り、海水で洗って生乾きの岩のりを添えれば申し分ない。

これに月山だけでも西に滑れば、柴灯森から湯殿山スキー場に、山頂から北に向かって滑って北月山荘、月の沢温泉へ、東に向かえば肘折温泉へのロングコース、南に滑れば国道112号の湯殿山口の宮神社へのスキーツアーなど魅力に満ちている。 ('24 10)

送元二使安西（元二の 安西に 使いをするを 送る） 王維

渭城朝雨浥輕塵（渭城の朝雨輕塵を浥す） 客舍青青柳色新（客舍青青柳色新なり）

勸君更盡一杯酒（君に勸む更に尽くせ一杯の酒） 西出陽關無故人（西のかた陽關をいつれば故人無からん）